

稲作農家の皆さんへ

稲わら処理と利用についての注意点

刈取った稲わらの処理と利用は、下記に留意して作業を進めてください。

なお、稲わらの放射性物質検査を実施しています。結果が出しだい連絡しますので、しばらくお待ちください。

記

- 1 稲わらは、刈り取ったほ場へのすき込み及び堆肥の副資材への利用は可能です。
- 2 稲わらの畜産利用（えさ・敷料）及び農業利用（敷わら・土壌施用等）は、別途指示があるまでしばらくお待ちください。なお、ほ場からの移動は可能です。
- 3 刈り取り後のわら収集時は、なるべく土(泥)が付着しないよう注意してください。

(参考) 稲わらの利用方法と放射性セシウム濃度

稲わら処理、利用内容	暫定許容値
・刈り取ったほ場へのすき込み	規制なし
・堆肥の副資材	規制なし
・家畜のえさ利用	300ベクレル/kg
・家畜の敷料利用	400ベクレル/kg
・敷わら・土壌改良	400ベクレル/kg
・ほ場整備暗渠疎水材	400ベクレル/kg

家畜用に稲わらを収集する皆さんへ

— 耕種農家との契約による稲わら収集の作業準備を進めてください —

稲わら給与の可否については、収集して梱包した稲わらのモニタリング検査で判断します。その結果が出るまでは利用せず、保管願います。

1 稲わらのモニタリング調査

①稲わらのモニタリング調査結果は、9月中に発表される予定ですが、8月上旬の収穫前検査で那須地域の稲わらの放射性セシウム濃度が極低濃度であったことから、飼料にすることは可能とされます。

2 稲刈り時の留意点

- ①稲わらを収集する水田は、土手を切るなど排水に努め、田面を固くしてから稲刈りを行いましょ。
- ②土(泥)の付着した株元を避け、高刈りしましょ。
- ③枕地作業では、轍(わだち)ができないよう、コンバインの急旋回を避けてください。
- ④コンバインで稲わらを踏みつけないよう注意しましょ。

3 稲わら収集時の留意点

稲わらに土(泥)が混ざると放射性セシウム濃度が高くなる可能性があります。土(泥)が付着しないよう注意して作業を行いましょ。

- ①田面が固まってから、収集作業を行ってください。
- ②反転・集草作業は速度を落とし、泥を巻き上げないよう丁寧に行いましょ。
- ③可能な限り反転作業を少なくするため、稲わらの乾燥が進んでから作業を開始しましょ。反転作業を回避する方法として、ラッピングする方法もあります。
- ⑤作業者は粉じん等を吸い込まないよう、必ずマスク等を着用してください。